

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400350		
法人名	株式会社 三協宮城		
事業所名	グループホームあつたかいごおりやま けやき棟		
所在地	宮城県仙台市太白区郡山5丁目8-24		
自己評価作成日	令和3年10月15日	評価結果市町村受理日	

## ※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2021年11月15日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍に伴い、以前行っていた外出支援や近隣の児童館や保育園の子供達との関わりも少なくなりましたが、利用者様が不安にならないよう施設内で出来る事を職員間で共有し実施した。行事の際には手作りのケーキや手作りの装飾品などを利用者様へプレゼントし喜んで頂けるよう支援した。又、コロナ禍ではあるが感染予防を徹底しながらドライブや近隣への散歩を継続して行う事で、利用者様の気分転換になるよう支援するなど精神面でのケアを積極的に行っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は2007年に開設し、中学校や小学校、保育所などが点在する仙台市南部の郊外にある。「自分らしく安心できる生活、明るい笑顔のある生活、地域と触れ合える生活を、支援していきます」を理念に掲げ、職員は理念に添ったケアの実践に努めている。コロナ禍の影響で、これまで通り出来ないところもあるが、「地域と触れ合える生活」の実現を目指し、管理者は町内会長と話し合うなど、出来ることから取り組もうとしている。事業所での生活で楽しみの一つである食事は、職員の手作りを基本とし、利用者や家族からの要望を取り入れたり、反応を確認しながら嫌いなものは別のメニューに変更するなど、臨機応変な対応をしている。避難訓練で課題を明らかにし、備蓄品の保管場所を増やすなど解決に取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームあったかいごこおりやま ）「けやき」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿って職員全員で業務を行っているが、コロナ禍の為「地域と触れ合える生活」に関しては満足に実践につなげられていない。	事業所理念を3項目掲げ、全体ミーティングやユニットミーティング、年2回の職員面談で理念を振り返りケアに活かしている。利用者が「自分らしく」を実践できるよう、職員は寄り添ったケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に通学中の子供達と挨拶を交わすなどの繋がりは継続して行えている。事業所としてはコロナ禍での1年間の動きや広報誌を作成し行事などの様子を地域の方々に報告した。	町内会に加入している。町内会長と話し合ったり、児童館との関りが持てるよう進めている。コロナ禍で地域との関りが少なくなっているが、事業所の広報紙を町内会役員に配布するなど、関りづくりに取り組んでいる。今後は町内会に情報紙の回覧を依頼し、地域住民にホームへの理解を深めてもらうことを目指している。	理念の一つである「地域と触れ合う生活」をより実践出来るよう、町内会や子どもたちとの新たな交流の推進を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌で認知症の方の生活、支援内容等を報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年同様に2カ月に一回書面にて事業所の取り組みを地域包括や地域の方々に周知を行っている。	例年は、町内会長、民生委員、保育園園長、児童館館長、地域包括支援センター職員のメンバーで、年6回開催している。コロナ禍で、運営状況などをグラフ化し可視化するなど、わかりやすく工夫し文書報告をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括に事業所の取り組みやコロナ禍での運営、居室の空き状況など報告している。	4月には事業所の年間計画を地域包括支援センターに届けている。市が主催するコロナ感染症についての研修に参加したり、生活保護の利用者について情報交換するなど、都度相談し合える関係である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を3か月に一回、職員全員で実施し、理解したうえで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会を6月・9月・12月に全職員が参加を基本に開催している。参加できない場合は申し送りで情報共有している。スピーチロックに繋がる言葉遣いなどは職員間で互いに注意し合い、改善に繋げている。日中玄関は施錠していないが、安全対策としてセンサーを設置している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて高齢者虐待について勉強会を行い、ケアの見直しを図っている。又、普段の業務中に不適切な言動があった際には職員間で注意し合える関係性を築いている。	教育委員会で研修計画を立て、ネグレクトや認知症、アンガーマネジメント(怒りのコントロール方法)について、全体やユニット毎のミーティングで研修している。ゆっくりなら立ち上がれる利用者に対し、職員の都合で手を貸し急がせてはいないかなど、不適切な場面を振り返り、利用者がその人らしく暮らせるよう、ケアに生かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて権利擁護に関する制度について理解し活用できるよう勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約内容を十分に説明し、又相手の不安や疑問点などを納得するまで話し合いながら契約へと繋げている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	食事について利用者様の要望にお応えしながら献立を立てている。ご家族様へこまめに連絡を行い、要望をお聞きしながらケアに取り組んでいる。	以前、夏祭りと同様開催していた家族交流会(家族から意見を聞くことも目的)は、コロナ禍で中断している。面会が制限されていたが、10月からはテレビ電話を導入した。結果、家族と、よりコミュニケーションを図ることが出来るようになった。家族から食べたい物の要望やぬり絵をさせて欲しいなど、利用者の日常生活に反映している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談を行い、職員の運営に関しての意見などを聞いたうえで上司、本部に伝え運営に反映できるよう努めている。	年2回、個人面談を定例化し職員の要望を聞いている。職員の資格取得への支援など、処遇改善に活かしている。管理者・ユニットリーダーは職員となんでも話せる関係や環境づくりをしている。食事についてやジュースの種類を増やしたり、レクリエーションや装飾品の工夫など、出された意見・要望は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を行い、就業環境について意見を聞いたうえで上司と本部に報告し、各自がやりがいや向上心をもって働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修にて状況に応じた内容の勉強会や各自が学びたい内容の勉強会を行うことで知識、技術が向上するよう努めている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	よりよいケアの発掘ができる機会をつくる為、他事業所から職員の人事異動を行うなどの取組みをしている。	コロナ禍で同業他社との交流は出来ていない。同法人内で人事異動を行い人的交流を図りながらケアの手法を変更するなど、ケアの向上に繋がった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調にて情報収集を行い、入居前に職員で十分に情報を共有し入居後ご本人様の安心が確保できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様が不安に思っている事やご要望をお聞きし安心して入居出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員間で情報を共有し必要となる支援が行えるよう話しあいより良いサービスを提供出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを密に図り気さくに回り合いが出来るよう努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に協力して頂けることはお願いをし家族と利用者様の関わる時間を増やすことで今までと変わらない関係になるよう努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人からの郵便や電話などあった際にはご家族と相談をし電話でお話して頂くなど関係が途切れないよう努めている。	入居前の友達との関係維持や墓参りなどの支援継続を行っている。馴染みの店での買い物や、整骨院への通院などはコロナ禍で中止している。訪問理・美容を利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が回り合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が一緒に出来る事は積極的に行って頂き利用者様同士の関係が良好になるよう努めている。又、利用者様同士が困難な場合には職員と一緒に行動するなど対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後にご家族様から相談等があった際には必要に応じて支援していけるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様に要望をお聞きし以前暮らしていた生活と変わらずに過ごせるようご家族様からご本人様の生活についての情報をお聞きするようにしている。	利用者とコミュニケーションを図りながら、やりたいこと、食べたいものなど、意向や要望を把握し、実現出来るよう努めている。言葉で表せられない人からは、家族から情報収集したり本人の仕草・表情から把握し対応している。利用者に入居してよかったと思って貰えるよう、日々のケアを試行錯誤しながら取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしについて情報収集を行い職員全員で話し合い情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過ごし方や心身の状態など情報収集を行い職員全員で話し合い情報の共有に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや日頃の業務の際に良かった事や課題について話し合い、それに沿って介護計画を作成している。	介護計画は、3ヶ月で見直し、医師・訪問看護師からも意見を聞き、ユニットミーティングでカンファレンスを行い全職員で検討し作成している。意欲低下傾向の人が花を見ると表情が変わる、足のむくみのある人に横になる時間を作るなどのモニタリング内容を介護計画に反映し作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の生活と変化があった場合などには記録に残し申し送りで共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族様からご要望があった際には申し送りなどで共有をし出来る限り対応出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩などで近隣の様子などを利用者様に知って頂き地域に関心を持っていただけるよう支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と連携を図り、状態変化等があった際には定期的にご家族様と主治医にて面談を行って頂きご希望に沿った医療が提供出来るようにしている。その為に職員は状態変化の早期発見、ご家族様への迅速な報告に努めている。	協力医療機関の医師をかかりつけ医として、月2回訪問診療を受診している。歯科医の歯科検診と月4回歯科衛生士による口腔ケアを行っている。週1回、訪問看護師が利用者の健康管理と、利用者の状態に合わせ具体的な指導を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の様子、状態変化等を毎週の訪問看護に相談、お伝えし指示を頂きながら利用者様が適切な受診や看護が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された方はいなかったがご家族様が入院した方がいいのかなど悩んでいる際にお話を聞き、主治医との面談の時間を作るなど医療機関と連携を図るよう努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化した場合の対応について説明している。又、状態変化などがあった際には定期的に主治医と面談して頂きご家族様の意向を確認するようにしている。それを元に職員間でケアの方針を決めより良いケアにつなげられるよう努めている。	看取りの実績がある。入居時に利用者・家族に重度化した際のケアについて説明している。重度化した時には家族・医師が定期的に話し合い、事業所でも情報共有している。看取り後は振り返りを行い、職員へのグリーフケアは管理者との面談時や職員間でも話し合いフォローしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に冷静に対応出来るようミーティングで勉強会を行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練、水害訓練を実施し、近隣の避難所まで数名の利用者様にご協力いただきながら実際の避難時間などの把握に努めている。町内の方へ訓練のお話をさせて頂いたがコロナ禍の為一緒にには行えていない。	自然災害、火災等のマニュアルを備えている。コロナ等の感染症に関しては厚労省の「感染対策の手引き」等を活用している。火災訓練は夜間想定を含めて年2回実施している。避難訓練で明らかになった課題から、備蓄品の設置場所を変更するなど、改善に繋げている。設備点検は年3回実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修にてプライバシー保護について勉強会を行っている。又、不適切な声かけ等があった際には職員間で注意しあえる環境にしている。	プライバシー・接遇の研修は年度毎実施している。(今年度も年度内実施予定) 接遇研修にはアンガーマネジメント(怒りのコントロール)も取り入れている。ケア中に言葉による抑制を行っていないか振り返り、職員間で話し合い抑制にならない言葉掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意向を日々の生活でこまめに聞くようにしている。又、女性利用者様には女性職員がお聞きするなどの配慮も行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様優先を徹底している。利用者様のご希望にお応えするため、一日の業務の流れを朝の申し送りで話し合うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を利用している。又ご本人様が好きだった服などを持参して頂き、その人らしい身だしなみが出来るよう努めている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用様の食の好みを把握し献立を作成している。又定期的に少し豪華なお弁当を頼み少しでも食事を楽しんで頂けるよう考慮している。調理ができる方とは一緒に調理を行い力を活かせず支援も行っている。	ユニット毎に献立を作成し、食材購入や調理は職員が行っている。利用者の要望に応え主食のパンの回数を増やしたり、行事食に豪華なお弁当を用意するなど楽しい食事になるよう取り組んでいる。利用者の状態や体重の変化を記録し、医師・訪問看護師から水分摂取量や栄養状態改善に向けてのアドバイスを得るなど、連携している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録表にて食事量や水分量の把握に努めている。又、咀嚼嚥下状態に合わせながら食事形態の工夫なども行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医、歯科衛生士の指導の下で口腔内が清潔に保てるよう努めている。又、歯磨きが困難な方には口腔スポンジや口腔ティッシュを活用し、その人にあった口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	生活記録表にて排泄パターンの把握に努めている。出来る限りトイレで排泄していただけるようにし、立位が困難な方には2名介助にて対応している。	生活記録に排泄パターンを記録し、一人ひとりのパターンに合わせ支援している。夜間帯もその人に合わせ声掛けするなどの支援を行っている。便秘対策には乳製品や食物繊維の多い食品を取入れたり、みそ汁にオリブオイルを入れるなど工夫し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を使用して排便間隔を把握し主治医、訪看と相談しながら服薬等で排便コントロールを行っている。又、軽運動や食事にて便秘予防に取り組んでいる。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を基本としているが、利用者様の希望に沿って入浴日や入浴回数を決定している。又、ご自身の好みのシャンプーを使用して頂いたり入浴剤などを使用して入浴が楽しみになるよう支援している。	週2回を基本に入浴し、時間帯は希望に応じて対応している。シャワー浴を毎日している利用者もいる。好みのシャンプーを使用したり、入浴剤を活用したり、気持ち良く入浴ができるように取り組んでいる。希望がある場合は、同性介助も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の要望や体調に合わせて臥床していただくようにしている。フロアでのテレビの音量や声の大きさなどを注意するなど安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に変更があった際には申し送りなどで共有している。又、服薬後に状態変化がないかなどを把握するように職員間で声を掛け合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前行っていた事や好きな事の把握に努め、縫物や散歩、以前は買物など利用者様がやりたい事を行って頂く事で張り合いや喜びのある生活になるよう支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設内での生活だけにならないようお花見や紅葉などにドライブに行き気分転換になるよう支援している。	コロナ禍の中でも景勝地や園芸センターなど季節が感じられるよう、ドライブで外出支援を行っている。車いす対応の車両があり、みんなと一緒に外出をしている。月1回は外出ができるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談しながらご自身で管理されている方は日用品などをご自身で購入して頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身が電話したいと訴えがあった際にはご家族様と相談し電話にてお話して頂くようにしている。又、コロナ禍になった際にはオンライン通話も行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が不快や混乱しないよう環境整備を行っている。又、装飾品を飾ったり、利用者様と作ったり一緒に季節が感じられるよう支援している。	共用空間は利用者の動線に配慮し動きやすく混乱しないように、環境整備をしている。季節感や思い出を呼び起せるよう民芸品や絵画、写真などを飾っている。日中は殆どの利用者がリビングで過ごしており、気持ち良く過ごせるよう利用者の関係を見極め、座る位置などにも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でテレビなど見られる方にはご家族と相談しテレビを購入して頂くなどご本人様に合った居場所づくりを行っている。又、気の合う利用者様同士がお話できるようソファなども設置している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前住まれていたお部屋にあった物などを持参して頂き、住み慣れた空間を作ることで居心地よく過ごせるよう支援している。	利用者は今まで使い慣れた筆筒や椅子、掛け軸、置物などを持ち込み、安心して生活できるようにしている。アイロンを掛ける、本を読む、テレビを観るなど思い思いに過ごしている。職員は温度管理や換気を行い、毎日の掃除や衣替えなどを手伝っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の環境整備を整え安全かつ自立した生活が送れるよう支援している。洗濯機や乾燥機などの使い方をレクチャーし安全にご自身で使用して頂くようにしている。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400350		
法人名	株式会社 三協宮城		
事業所名	グループホームあつたかいごおりやま はぎ棟		
所在地	宮城県仙台市太白区郡山5丁目8-24		
自己評価作成日	令和3年10月15日	評価結果市町村受理日	

## ※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2021年11月15日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍に伴い、以前行っていた外出支援や近隣の児童館や保育園の子供達との関わりも少なくなりましたが、利用者様が不安にならないよう施設内で出来る事を職員間で共有し実施した。行事の際には手作りのケーキや手作りの装飾品などを利用者様へプレゼントし喜んで頂けるよう支援した。又、コロナ禍ではあるが感染予防を徹底しながらドライブや近隣への散歩を継続して行う事で、利用者様の気分転換になるよう支援するなど精神面でのケアを積極的に行っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は2007年に開設し、中学校や小学校、保育所などが点在する仙台市南部の郊外にある。「自分らしく安心できる生活、明るい笑顔のある生活、地域と触れ合える生活を、支援していきます」を理念に掲げ、職員は理念に添ったケアの実践に努めている。コロナ禍の影響で、これまで通り出来ないところもあるが、「地域と触れ合える生活」の実現を目指し、管理者は町内会長と話し合うなど、出来ることから取り組もうとしている。事業所での生活で楽しみの一つである食事は、職員の手作りを基本とし、利用者や家族からの要望を取り入れたり、反応を確認しながら嫌いなものは別のメニューに変更するなど、臨機応変な対応をしている。避難訓練で課題を明らかにし、備蓄品の保管場所を増やすなど解決に取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームあったかいごこおりやま ）「はぎ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿って職員全員で業務を行っているが、コロナ禍の為「地域と触れ合える生活」に関しては満足に実践につなげられていない。	事業所理念を3項目掲げ、全体ミーティングやユニットミーティング、年2回の職員面談で理念を振り返りケアに活かしている。利用者が「自分らしく」を実践できるよう、職員は寄り添ったケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に通学中の子供達と挨拶を交わすなどの繋がりは継続して行っている。事業所としてはコロナ禍での1年間の動きや広報誌を作成し行事などの様子を地域の方々に報告した。	町内会に加入している。町内会長と話し合ったり、児童館との関りが持てるよう進めている。コロナ禍で地域との関りが少なくなっているが、事業所の広報紙を町内会役員に配布するなど、関りづくりに取り組んでいる。今後は町内会に情報紙の回覧を依頼し、地域住民にホームへの理解を深めてもらうことを目指している。	理念の一つである「地域と触れ合う生活」をより実践出来るよう、町内会や子どもたちとの新たな交流の推進を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌で認知症の方の生活、支援内容等を報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年同様に2か月に一回書面にて事業所の取り組みを地域包括や地域の方々に周知を行っている。	例年は、町内会長、民生委員、保育園園長、児童館館長、地域包括支援センター職員のメンバーで、年6回開催している。コロナ禍で、運営状況などをグラフ化し可視化するなど、わかりやすく工夫し文書報告をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括に事業所の取り組みやコロナ禍での運営、居室の空き状況など報告している。	4月には事業所の年間計画を地域包括支援センターに届けている。市が主催するコロナ感染症についての研修に参加したり、生活保護の利用者について情報交換するなど、都度相談し合える関係である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を3か月に一回、職員全員で実施し、理解したうえで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会を6月・9月・12月に全職員が参加を基本に開催している。参加できない場合は申し送り情報共有している。スピーチロックに繋がる言葉遣いなどは職員間で互いに注意し合い、改善に繋げている。日中玄関は施錠していないが、安全対策としてセンサーを設置している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて高齢者虐待について勉強会を行い、ケアの見直しを図っている。又、普段の業務中に不適切な言動があった際には職員間で注意し合える関係性を築いている。	教育委員会で研修計画を立て、ネグレクトや認知症、アンガーマネジメント(怒りのコントロール方法)について、全体やユニット毎のミーティングで研修している。ゆっくりなら立ち上げられる利用者に対し、職員の都合で手を貸し急がせてはいないかなど、不適切な場面を振り返り、利用者がその人らしく暮らせるよう、ケアに生かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて権利擁護に関する制度について理解し活用できるよう勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約内容を十分に説明し、又相手の不安や疑問点などを納得するまで話し合いながら契約へと繋げている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	食事について利用者様の要望にお応えしながら献立を立てている。ご家族様へこまめに連絡を行い、要望をお聞きしながらケアに取り組んでいる。	以前、夏祭りと同様開催していた家族交流会（家族から意見を聞くことも目的）は、コロナ禍で中断している。面会が制限されていたが、10月からはテレビ電話を導入した。結果、家族と、よりコミュニケーションを図ることが出来るようになった。家族から食べたい物の要望やぬり絵をさせて欲しいなど、利用者の日常生活に反映している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談を行い、職員の運営に関しての意見などを聞いたうえで上司、本部に伝え運営に反映できるよう努めている。	年2回、個人面談を定例化し職員の要望を聞いている。職員の資格取得への支援など、処遇改善に活かしている。管理者・ユニットリーダーは職員となんでも話せる関係や環境づくりをしている。食事についてやジュースの種類を増やしたり、レクリエーションや装飾品の工夫など、出された意見・要望は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を行い、就業環境について意見を聞いたうえで上司と本部に報告し、各自がやりがいや向上心をもって働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修にて状況に応じた内容の勉強会や各自が学びたい内容の勉強会を行うことで知識、技術が向上するよう努めている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	よりよいケアの発掘ができる機会をつくる為、他事業所から職員の人事異動を行うなどの取り組みをしている。	コロナ禍で同業他社との交流は出来ていない。同法人内で人事異動を行い人的交流を図りながらケアの手法を変更するなど、ケアの向上に繋がった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調にて情報収集を行い、入居前に職員で十分に情報を共有し入居後ご本人様の安心が確保できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様が不安に思っている事やご要望をお聞きし安心して入居出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員間で情報を共有し必要となる支援が行えるよう話しあいより良いサービスを提供出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを密に図り気さくに関わり合いが出来るよう努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に協力して頂けることはお願いをし家族と利用者様の関わる時間を増やすことで今までと変わらない関係になるよう努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人からの郵便や電話などあった際にはご家族と相談をし電話でお話して頂くなど関係が途切れないよう努めている。	入居前の友達との関係維持や墓参りなどの支援継続を行っている。馴染みの店での買い物や、整骨院への通院などはコロナ禍で中止している。訪問理・美容を利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が一緒に出来る事は積極的に行って頂き利用者様同士の関係が良好になるよう努めている。又、利用者様同士が困難な場合には職員と一緒に行動するなど対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後にご家族様から相談等があった際には必要に応じて支援していけるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様に要望をお聞きし以前暮らしていた生活と変わらずに過ごせるようご家族様からご本人様の生活についての情報をお聞きするようにしている。	利用者とのコミュニケーションを図りながら、やりたいこと、食べたいものなど、意向や要望を把握し、実現出来るよう努めている。言葉で表せられない人からは、家族から情報収集したり本人の仕草・表情から把握し対応している。利用者に入居してよかったと思って貰えるよう、日々のケアを試行錯誤しながら取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしについて情報収集を行い職員全員で話し合い情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過ごし方や心身の状態など情報収集を行い職員全員で話し合い情報の共有に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや日頃の業務の際に良かった事や課題について話し合い、それに沿って介護計画を作成している。	介護計画は、3ヶ月で見直し、医師・訪問看護師からも意見を聞き、ユニットミーティングでカンファレンスを行い全職員で検討し作成している。意欲低下傾向の人が花を見ると表情が変わる、足のむくみのある人に横になる時間を作るなどのモニタリング内容を介護計画に反映し作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の生活と変化があった場合などには記録に残し申し送りで共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族様からご要望があった際には申し送りなどで共有をし出来る限り対応出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩などで近隣の様子などを利用者様を知って頂き地域に関心を持っていただけるよう支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と連携を図り、状態変化等があった際には定期的にご家族様と主治医にて面談を行って頂きご要望に沿った医療が提供出来るようにしている。その為に職員は状態変化の早期発見、ご家族様への迅速な報告に努めている。	協力医療機関の医師をかかりつけ医として、月2回訪問診療を受診している。歯科医の歯科検診と月4回歯科衛生士による口腔ケアを行っている。週1回、訪問看護師が利用者の健康管理と、利用者の状態に合わせ具体的な指導を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の様子、状態変化等を毎週の訪問看護に相談、お伝えし指示を頂きながら利用者様が適切な受診や看護が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された方はいなかったがご家族様が入院した方がいのかなど悩んでいる際にお話を聞き、主治医との面談の時間を作るなど医療機関と連携を図るよう努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化した場合の対応について説明している。又、状態変化などがあった際には定期的に主治医と面談して頂きご家族様の意向を確認するようにしている。それを元に職員間でケアの方針を決めより良いケアにつなげられるよう努めている。	看取りの実績がある。入居時に利用者・家族に重度化した際のケアについて説明している。重度化した時には家族・医師が定期的に話し合い、事業所でも情報共有している。看取り後は振り返りを行い、職員へのグリーフケアは管理者との面談時や職員間でも話し合いフォローしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に冷静に対応出来るようミーティングで勉強会を行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	防災訓練、水害訓練を実施し、近隣の避難所まで数名の利用者様にご協力いただきながら実際の避難時間などの把握に努めている。町内の方へ訓練のお話をさせて頂いたがコロナ禍の為一緒には行えていない。	自然災害、火災等のマニュアルを備えている。コロナ等の感染症に関しては厚労省の「感染対策の手引き」等を活用している。火災訓練は夜間想定を含めて年2回実施している。避難訓練で明らかになった課題から、備蓄品の設置場所を変更するなど、改善に繋げている。設備点検は年3回実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修にてプライバシー保護について勉強会を行っている。又、不適切な声かけ等があった際には職員間で注意しあえる環境にしている。	プライバシー・接遇の研修は年度毎実施している。(今年度も年度内実施予定)接遇研修にはアンガーマネジメント(怒りのコントロール)も取り入れている。ケア中に言葉による抑制を行っていないか振り返り、職員間で話し合い抑制にならない言葉掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意向を日々の生活でこまめに聞くようにしている。又、女性利用者様には女性職員がお聞きするなどの配慮も行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様優先を徹底している。利用者様のご希望にお応えするため、一日の業務の流れを朝の申し送りで話し合うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を利用している。又ご本人様が好きだった服などを持参して頂き、その人らしい身だしなみが出来るよう努めている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用様の食の好みを把握し献立を作成している。又定期的に少し豪華なお弁当を頼み少しでも食事を楽しんで頂けるよう考慮している。調理ができる方とは一緒に調理を行い力を活かす支援も行っている。	ユニット毎に献立を作成し、食材購入や調理は職員が行っている。利用者の要望に応え主食のパンの回数を増やしたり、行事食に豪華なお弁当を用意するなど楽しい食事になるよう取り組んでいる。利用者の状態や体重の変化を記録し、医師・訪問看護師から水分摂取量や栄養状態改善に向けてのアドバイスを得るなど、連携している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録表にて食事量や水分量の把握に努めている。又、咀嚼嚥下状態に合わせながら食事形態の工夫なども行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医、歯科衛生士の指導の下で口腔内が清潔に保てるよう努めている。又、歯磨きが困難な方には口腔スポンジや口腔ティッシュを活用し、その人にあった口腔ケアを行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	生活記録表にて排泄パターンの把握に努めている。出来る限りトイレで排泄していただけるようにし、立位が困難な方には2名介助にて対応している。	生活記録に排泄パターンを記録し、一人ひとりのパターンに合わせ支援している。夜間帯もその人に合わせ声掛けするなどの支援を行っている。便秘対策には乳製品や食物繊維の多い食品を取入れたり、みそ汁にオリーブオイルを入れるなど工夫し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を使用して排便間隔を把握し主治医、訪看と相談しながら服薬等で排便コントロールを行っている。又、軽運動や食事にて便秘予防に取り組んでいる。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を基本としているが、利用者様の希望に沿って入浴日や入浴回数を決定している。又、ご自身の好みのシャンプーを使用して頂いたり入浴剤などを使用して入浴が楽しみになるよう支援している。	週2回を基本に入浴し、時間帯は希望に応じて対応している。シャワー浴を毎日している利用者もいる。好みのシャンプーを使用したり、入浴剤を活用したり、気持ち良く入浴ができるように取り組んでいる。希望がある場合は、同性介助も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の要望や体調に合わせて臥床していただくようにしている。フロアでのテレビの音量や声の大きさなどを注意するなど安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に変更があった際には申し送りなどで共有している。又、服薬後に状態変化がないかなどを把握するように職員間で声を掛け合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前行っていた事や好きな事の把握に努め、縫物や散歩、以前は買物など利用者様がやりたい事を行って頂く事で張り合いや喜びのある生活になるよう支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設内での生活だけにならないようお花見や紅葉などにドライブに行き気分転換になるよう支援している。	コロナ禍の中でも景勝地や園芸センターなど季節が感じられるよう、ドライブで外出支援を行っている。車いす対応の車両があり、みんなと一緒に外出をしている。月1回は外出ができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談しながらご自身で管理されている方は日用品などをご自身で購入して頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身が電話したいと訴えがあった際にはご家族様と相談し電話にてお話して頂くようにしている。又、コロナ禍になった際にはオンライン通話も行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が不快や混乱しないよう環境整備を行っている。又、装飾品を飾ったり、利用者様と作ったり一緒に季節が感じられるよう支援している。	共用空間は利用者の動線に配慮し動きやすく混乱しないように、環境整備をしている。季節感や思い出を呼び起せるよう民芸品や絵画、写真などを飾っている。日中は殆どの利用者がリビングで過ごしており、気持ち良く過ごせるよう利用者の関係を見極め、座る位置などにも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でテレビなど見られる方にはご家族と相談しテレビを購入して頂くなどご本人様に合った居場所づくりを行っている。又、気の合う利用者様同士がお話できるようソファなども設置している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前住まれていたお部屋にあった物などを持参して頂き、住み慣れた空間を作ることで居心地よく過ごせるよう支援している。	利用者は今まで使い慣れた筆筒や椅子、掛け軸、置物などを持ち込み、安心して生活できるようにしている。アイロンを掛ける、本を読む、テレビを観るなど思い思いに過ごしている。職員は温度管理や換気を行い、毎日の掃除や衣替えなどを手伝っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の環境整備を整え安全かつ自立した生活が送れるよう支援している。洗濯機や乾燥機などの使い方や安全にご自身で使用して頂くようにしている。		